事例発表会

川崎西RC
コーディネーター
三間

パネリスト
第1グループ　「マナーキッズ」
薮田　和利（新川崎RC会長）
小泉　稔（新川崎RC会長エレクト）
田中　日出男
（認定NPO法人マナーキッズプロジェクト理事長）

新川崎RC会長
薮田　和利
新川崎RC会長エレクト
小泉　稔
認定NPO法人
マナーキッズプロジェクト理事長
田中　日出男

マナーキッズ

パネリスト
薮田 和利
(新川崎 RC)

パネリスト
小泉 稔
(新川崎 RC)

パネリスト
田中 日出男
(認定 NPO 法人マナーキッズプロジェクト理事長)

■ 事例発表の概要

地域そして社会にどのように貢献できるかというテーマにおいて、子供たちにスポーツを通じて日常の挨拶や正しい礼儀作法などを教える活動「マナーキッズプロジェクト」をご紹介します。新川崎 RC は、このマナーキッズプロジェクトに協賛・支援、役所や学校への働きかけ、他のクラブへの呼びかけなどを行い、活動の輪を広げています。今回の IM では認定 NPO 法人マナーキッズプロジェクトの田中日出男理事長をお招きして、マナーキッズプロジェクトの活動事例や実際の活動映像をご紹介頂きます。

マナーキッズ

薮田 和利（新川崎RC）

本日のIMのテーマであります「地域社会で育む新世代」について、第2590地区第1グループ代表として私たちのクラブの活動内容を報告させていただきます。
私たちクラブは総勢24名という少数クラブでございますが、その中でどのようにして地域そして社会に貢献できるか、ということをテーマに日々活動をしています。ある時、全国の子供たちにスポーツを通じて日常の挨拶や正しい礼儀作法などを広める活動をしている方がいらっしゃるというお話を伺いまして、一度当クラブの例会にお招きし、お話を伺ってはどうかという提案がありました。そこで今からちょうど3年前に当ります2008年の2月に、認定NPO法人マナーキッズプロジェクトの田中理事長を例会にお招きしました。その時のお話の内容は、なぜマナーキッズプロジェクトを立ち上げたのか、ということでありました。今の子供たちや若い人たちは人間としての基本的な挨拶、マナーやルールの欠如が見られ、また体力や運動能力の面にも影響しているなど、様々なデータをもとにお話をしていただいたことを今でも鮮明に覚えています。田中理事長は、このままでは日本の将来はダメになるとの思いから全国の幼稚園や小学校などに出向き、実際に子どもたちにマナーやルールの大切さをボランティアでご教授されていると伺い、私たちも大変感銘いたしました。

そこで私たちのクラブは田中理事長の活動に何かお役に立てることはないかと考え、2008年の6月に川崎市立日吉小学校全児童・保護者を対象に計4日間マナーキッズ教室を開催いたしました。その時の子供たちの感想、教師の感想、また保護者の感想はすこぶる良いものでした。最初はきちんと挨拶できなかった子供たちがプログラムを終える頃には、全員がきちんと挨拶ができるようになりました。子供たちはそれが自信となり、教師や参加者・保護者の方たちは一様に感激されておりました。こうした活動こそが、「地域社会で育む新世代」に非常にマッチしているのではないかと私は思います。このマナーキッズプロジェクトを各ロータリーの方々にご紹介させていただき、この活動の支援の輪を私たちのクラブだけでなく、皆様と共にもっともっと広げていきたいと考えています。

現在、第1グループの8クラブ中、6クラブが卓話及び小学校でのマナーキッズプロジェクトの開催支援を行っています。皆様のお手元に黄色い紙のパンフレットがあると思います。これは先日川崎日吉RCの川崎市立日吉小学校でマナーキッズ教室を開催した時の毎日新聞の記事でございます。後ほど読んでいただければ幸いです。ここでNPO法人マナーキッズプロジェクトの田中理事長のご紹介を、我々のクラブの会長エレクト・小泉 稔からお願いいたします。よろしくお願いいたします。

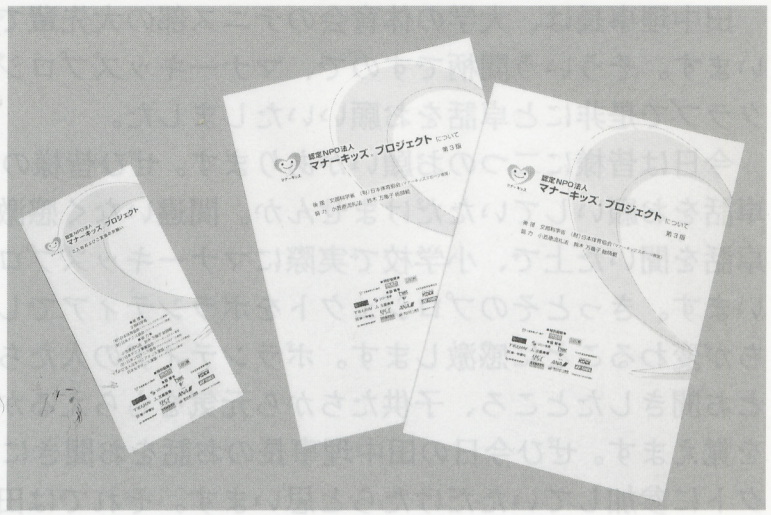
小泉 稔（新川崎RC）

田中理事長は、大学の体育会のテニス部の大先輩でございまして、全日本代表選手でございます。そういう間柄ですので、マナーキッズプロジェクトのお話を聞いた時に、私たちのクラブで是非にと卓話をお願いいたしました。

今日は皆様に二つのお願いがあります。ぜひ皆様のクラブに田中理事長をお呼びいただき、卓話をお願いしていただけませんか。間違いなく感激します。そして、もうひとつは、その卓話を聞いた上で、小学校で実際にマナーキッズプロジェクトを開催していただけたらと思います。きっとそのプロジェクトをボランティアでしている人に感激します。また、子供たちが変わることに感激します。ボランティアの人たちは何でそんなに一生懸命やるのですかとお聞きしたところ、子供たちから元気をもらえるからですという応えでした。本当に感動を覚えます。ぜひ今日の田中理事長のお話をお聞きになりまして、ぜひマナーキッズプロジェクトに参加していただけたらと思います。それでは田中理事長、よろしくお願いします。

マナーキッズ

田中 日出男（認定NPO法人マナーキッズプロジェクト理事長）



国際ロータリー第2590地区第1・第2・第3グループのIMで、このような機会を頂戴した上、先ほどの薮田会長及び小泉会長エレクトから過分なご紹介、どうもありがとうございます。

お手元のパンフレットの中に特別協賛、協賛というのがあります。東京中央RCからこのマナーキッズにご協賛いただきました。しかも協賛企業のトップに入っています。

また、新川崎RCのご縁で川崎の第1グループにどんどん今協賛の輪が広がっています。先ほど薮田会長がおっしゃられたように、新川崎RC、川崎南RC、川崎幸RC、川崎中央RC、川崎日吉RC、それから川崎RCと、合計6ロータリークラブで卓話の機会を頂きました。また新川崎RCのご支援で日吉小学校、それから川崎南RCのご支援で宮前小学校、川崎中央RCのご支援で旭町小学校、そして川崎日吉RCのご支援で夢見ヶ崎小学校と、4つの小学校でマナーキッズ教室を開催することができました。その輪は東京、川崎だけでなくて、大阪あるいは九州、山口、高知と段々と広がっています。すでに全国で5万5,000人の幼稚園児・小学生が参加しています。

…DVD映像再生（約5分）…

＜スポーツを通じて＞

DVDでご覧いただきましたように、マナーキッズとは、スポーツと日本の伝統的な礼儀作法である小笠原流礼法のコラボレーションです。初めに子どもに自己紹介をしてもらいます。全国どこでもそうですが、まずは子供たちの姿勢の悪さに気がつきます。フニャフニャしているのです。蚊が鳴くような声でショボショボ話します。自己紹介の後で、小笠原流の総師範から正しいお辞儀・挨拶の仕方を指導していただきます。私は昭和15年生まれですが、総師範の指導を聞いていると、私もずいぶん今までいい加減なお辞儀をしていたと反省させられます。きちんと「気をつけ」をして、お腹に力を入れて、頭を下げるのではなくて、「よろしくお願いします」と言ってから、心を下げる、腰を折る。終ったら必ず相手の人の目を見る。それが正しい挨拶とお辞儀です。言葉とお辞儀は別です。挨拶をする。お辞儀をする。それから相手の目を見る。そういうご指導があります。

このような挨拶とお辞儀を、テニス、サッカーでも何でも良いのですけども、スポーツをやりながら繰り返す。今学校の授業は90分で2時限です。その時間の間にこのような挨拶とお辞儀を何回も繰り返し行います。そうすると、終わる頃には親がびっくりするほど、腰骨が立った見事な挨拶をするようになります。子供は教えれば必ずできるようになります。

＜躾の環境作り＞

このプロジェクトでは保護者に対しても「家庭内での躾」という話をします。まず質問されるのは朝起きたら誰から声を掛けますかということです。たいていは、お母さんから「何々ちゃん、おはよう。宿題した？」などと声をかけます。幼稚園までは親から声をかけても良い、小学校に入る頃からは、子供から「おはようございます」と丁寧な言葉で挨拶させなさい、ということです。今は目上・目下の関係を意識しませんから、幼稚園、小学校、家庭でも全員が友達感覚です。小学校でも先生たちから「おはよう」と話しかけるので、子供たちが自分から挨拶しないのです。子供たちから丁寧な言葉で挨拶させないといけません。

それから今は電車の中で食事をしたり、化粧をしたり、公的な空間と私的な空間のけじめがつけられない人が多い。その遠因はお母さんの行為にもあります。お母さんが、特に食事の時に子供の、女の子の髪を触るなどする、そういうところから公的な空間と私的な空間のけじめがつけられなくなる。それから、必ずお見送りをしなさいと言われます。これが非常に大事なのです。玄関から出て5～6メートルと行ったところで「何々ちゃん行ってらっしゃい」と言うだけで、子どもは母親の愛情を感じて学校へ行きます。そうするといじめにも非常に強くなるらしく、そのようなことを筑波大学の大森肇准教授がハツカネズミで実験・検証しています。実験では母親の愛情を受けて育ったネズミとそうでないネズミで、ストレスに対する堪え性が違ってくることが分かっています。また認知症にもなりにくいということです。ネズミでの短期間の実験結果ではありますが、いかに母親の愛情が大切かということが理解できます。また、大森准教授は、今の子供の体力・運動能力は年々落ちていて、それが知能にも影響しているという研究をしています。筑波大学の近くの保育園で検証した結果、

マナーキッズ

週三回グーチョキパーとかの模倣運動をさせる保育園の園児と、しない保育園の園児で言語機能に違いが見られることが分かりました。すなわちそのような運動が知能の発達に影響を与えるということです。

これは単に日本だけでの現象ではありません。イギリスとかドイツなどのヨーロッパ諸国も、マナーの低下に悩んでいます。原因はやはり地域共同体の崩壊、宗教の影響力の低下、異文化の混入などにあると考えられています。それを考えると、日本というのは素晴らしい国です。小笠原流礼法という礼儀作法が600年以上も続いている国です。我々はマナーの低下に悩んでいる国々とコラボレーションをすれば、何か解決の糸口があるというふうに考えています。今、このプロジェクトではマナーキッズ大使を海外に派遣しています。マナーキッズ大使はテニスの文部科学大臣杯での試合結果とマナーの感想文で選ばれます。

＜活動意図と現在の社会＞

何故このようなプロジェクトを始めたか？　私はあるメーカーで人事労務を担当しています。そんな中で、社内で従業員同士が挨拶をしなくなっているのが気になりました。挨拶もしないで、知らぬ顔をして席に着くのです。最近ではパソコンを皆が使うので、隣の席の人とさえメールでやり取りをしています。そして、結果としてお互いに挨拶をしない、言葉を交わさないのです。どうしてかと思っていたときに、近くの小学校を見ていて気がつきました。先生が校門に立っている、その先生に対して子供たちは知らぬ顔をしている。そんな子供時代から、我々が挨拶する習慣を無くしてしまっている。子供たちは、そのまま会社に入ってしまい、挨拶のできないおかしな人間になってしまう。

私どもは、早稲田大学のテニス部に所属していました。そんな関係で、平成8年に小学生のテニス教室でマナーキッズプロジェクトを開始しました。それから財団法人日本テニス協会、そして他のスポーツにもこの運動を広げようと、NPO法人を立ち上げました。今までテニスで約43,000人、サッカー、ラグビー、野球、バスケット、柔道、剣道、あと音楽。何でも小笠原流とくっつければ良いのです。こちらで約12,000人です。合わせて約55,000人の指導をしてきました。

最近、品川区がマナーキッズ教室を地方自治体として初めて予算化いたしました。品川区は市民課という課を作り、10年間ほどマナーキッズ教室を行ってきました。品川区の若月教育長は「子供のマナーが低下しているのは、日教組にも当然責任はありますが、大部分は文部科学省に責任がある。今の学校教育の観念論にある」と言われています。「思いやりとは何ですか？」とか、そういう観念論は大切な教育ではない。「挨拶はこうしなさい」ということを学校現場で教育する必要があるのに、今はまったくしていないのが問題です。したがって、子供は挨拶の仕方を教わっていない。先ほど申しましたように、皆友達ですから。幼稚園では園長さんと園児が友達。小・中学校行っても先生と友達。家では親子が友達。しかし、友達では躾はできないということが忘れられていないでしょうか。社会には、必ず目上の者と目下の者がいる、挨拶は目下の者である子供たちからしなさいと今は指導をしております。

中学校は小学校に輪をかけて酷い。校長先生が演壇に立たれても誰も立ちません。女の子なんか股を広げて話を聞いています。ある中学校では「並べ」と言っても5分経っても並ばない。今の中学生はどうしようもないな、と思っていました。しかし、他の中学校に行きますと、同じことがきちっとできている。そして分ったことは、そこの中学生は小学生時代にマナーキッズ教室を受けていたということです。したがって、マナーキッズ教室を幼稚園と小学校で継続して行っていければ、中学生になったときも、きちんとした挨拶ができるようになり、その結果、社会での上下関係をきちんと理解できるようになると思います。

＜活動の輪を広げよう＞

最後に皆様方にお願いしたいことがございます。まずひとつは先ほど小泉会長エレクトがおっしゃいましたように、ぜひ第2590地区の第1・第2・第3グループの各クラブのご協力をいただきまして、マナーキッズ教室を学校で開催できるようにしていただけないかということです。学校というのは保守的といいますか、あまり新しいことをやりたがりません。我々が説明に行っても、「あー、良いことをやっておられますね」とそれだけです。何にも動かない。これをロータリーの皆様が学校あるいは教育委員会に言っていただくと、言う事を聞くのです。皆様は地域に絶大なる影響力をお持ちでございます。ぜひ皆様から第1・第2・第3グループ、いえ、第2590地区全体に働きかけてもらえないでしょうか。

北九州では学校が荒れているようです。小学校の授業でマナー教室を行ったのが142教室です。その内38教室が北九州の遠賀地区です。そこでは口コミでマナーキッズ運動がどんどん広がり、挨拶運動、マナーコミュニティということも始まっています。ぜひこの第2590地区の第1・第2・第3グループから、そういう運動を広げてほしいと思っております。

我々は認定NPO法人ということで国税庁から免税の団体になっております。予算関連法案が通過するかどうかはまだ分かりませんが、もしこれが通ればこういう認定NPO法人に対する寄付金は免税となります。ぜひご支援をお願いしたいと思います。

最後にお願いしたいのは、マナーキッズプロジェクトのボランティアの方の年齢は、65歳くらいから、一番上の方は83歳くらいまでです。ボランティアの人数は段々と増えてきていますが、週2回、3回の活動は体力的にきついという方もいます。「今、まさにロータリーの様々なネットワークを活用し、ロータリーならではの奉仕活動を見いだす」時期に来てい

マナーキッズ

ると、このIMのパンフレットにもございます。ぜひ皆様、テニスでもサッカーでも何でも結構でございますので、参加いただいて汗を流してください。

我々の活動を「君らは太平洋でゴミを拾っている」と言う人もいます。というのは今まで約55,000人にマナー教室を行ったのですが、まだ約860万人の幼稚園児・小学生がいます。これを何とかせめて「東京湾とか琵琶湖のゴミ拾い」と言われるように頑張りたいと思っております。ぜひ第2590地区の第1・第2・第3グループの各クラブの会員の方々に、マナーキッズプロジェクトをご理解いただき、第2590地区全体からマナーキッズの輪を広げていただければ幸いでございます。どうも本日はありがとうございました。

質疑応答

・三間 悌司コーディネーター

ありがとうございました。クラブの会長さんにお伺いしたいのですけども、24名のクラブでやってらっしゃるということですが、クラブとしての費用は1回につきどのぐらいご予算を目安とすればよいのでしょうか。

・薮田 和利（新川崎RC）

費用は卓話に来ていただく時に、お礼で５万円ぐらいです。ボランティアでマナーキッズプロジェクトに参加されている方は、交通費だけをいただいて、活動しています。少しは援助できれば良いかなという気持ちの金額です。

・三間 悌司コーディネーター

2008年から始められたとのことですが、その後は毎年のようにやってらっしゃるのですか。

・薮田 和利（新川崎RC）

最初の時はけっこう費用がかかりました。最初はネットとかラケットとかの購入費で、約20万円ぐらいですか。そんな経費的な問題もあり、その後ちょっとできませんでした。しかし、来期は違う小学校で開催する予定にしています。

・三間 悌司コーディネーター

新川崎RCさんが草分けで、大変な広がりを見せているとのことですが、ロータリーとして今後どういう展望を考えていらっしゃいますか。

・薮田 和利（新川崎RC）

これは私どものクラブだけでは、どうしようもないことなので、川崎市内の第１・第２・第３グループ、あるいは第2590地区全体で全国に広められたら最高ではないかなと思っております。

・三間 悌司コーディネーター

どうもありがとうございました。